

環境こだわり米「ヘアリーベッチ跡水稻」 安定生産技術支援

大津・南部農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

大津市南部の集落営農組織では、平成 20 年度より緑肥作物としてヘアリーベッチを活用し、そのほ場で生産されたお米を「はなふじ米」と名づけ J A 直売所で販売されています。平成 21 年度は生育後半に葉色が低下し、平均収量は慣行栽培の 9 割程度となりました。また「はなふじ米」は栽培面積の増加に伴い、全量を販売するために一層の差別化が必要となってきました。

そこで「はなふじ米」の収量を慣行栽培並みに向上させるとともに、差別化策として、カーボンフットプリント(経産省試行事業に基づく温室効果ガス排出量、以下「CFP」)表示への支援を行いました。

【普及活動の成果】

(1) ヘアリーベッチ跡水稻の収量の向上

平成 21 年度に減収した原因は、ヘアリーベッチの鋤込み時期が早かったこと、鋤込み後の入水が遅れて窒素成分が逃げたことが考えられました。

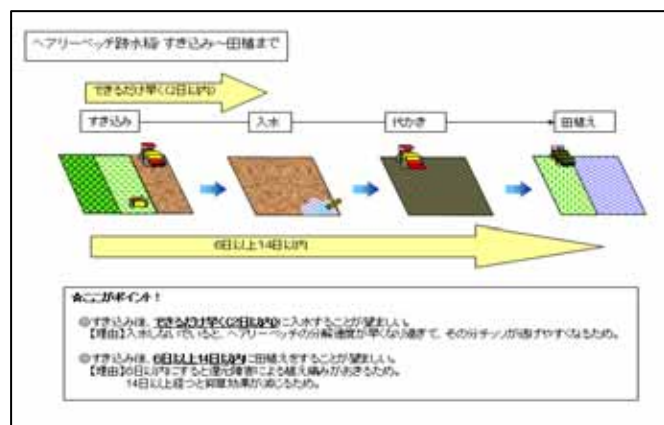
今年度はこれらを改善するため、ヘアリーベッチ鋤込み前に現地研修会を通じて、鋤込み時期と入水管理等について指導を行いました。

その結果、生育期間を通して肥効の発現は安定して持続し、展示ほの平均で慣行をわずかに上回る収量を確保することができました。

(2) CFP 表示による差別化策

CFP を研究する立命館大学理工学部環境システム研究室の協力が得られ、当課は計算に必要な多くのデータ(作業日誌、J A の各種施設の光熱費等)を収集・整理して大学に提供しました。試算結果は専門家による検証の未認められ、温室効果ガス排出量は同地域の「環境こだわり米」より 28% 少なくなる結果となりました。

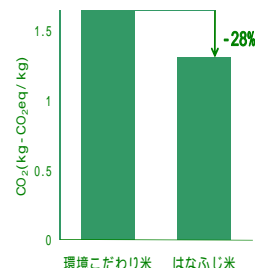
今後この成果をはなふじ米の P R に活用できるよう、支援していきたいと考えています。



現地研修会資料



CFPマーク



温室効果ガス排出量の比較